

Q15 個人で日課表が違うので、時間の設定が難しいです。時間を確保することができません。



特別支援学級担任

複数学年にまたがって児童が在籍しているので、交流クラスとの授業調整が難しいです。



通級指導教室担当

通級対象の児童が増加傾向で巡回指導も始まりました。一人一人の通級指導の時間が、週の時間割の中で固定化していません。



特別支援学級担任

日課表の設定が難しいです。特に、児童と一対一になれる時間の確保ができません。

A 児童生徒全員又は同じような指導目標、内容の児童生徒で、自立活動の指導する時間をそろえ、日課表を計画します。

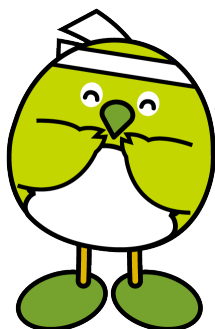
特別支援学級においては、個々の児童生徒の交流学級の授業が何であるかに関わらず、特別支援学級の日課表を、特別支援学級が運営しやすいように計画する必要があります。そうした上で、**自立活動の時間については、各児童生徒の自立活動の時間をそろえる**工夫が、まず考えられます。自立活動の指導は、個々の困難に応じて目標や内容が異なっていますが、学級の自立活動を指導する時間をそろえることで、一緒に学ぶことも可能になり、学習の導入やまとめ、対話的な活動の指導がしやすくなります。

全員を同じ時間にそろえられない場合は、**同じような課題や指導目標、内容の児童生徒の時間をそろえる**と、その課題別のグループで指導でき、また、お互いの考えを交流させることで指導の効果を高めることができます。

また、異なる目標や内容の児童生徒で指導を行う場合は、机間を仕切ってお互いの学習が干渉しないようにしたり、教師の直接指導と間接指導を組み合わせたわたりの指導（詳細はQ20参照）を行ったりして、指導方法を工夫することが考えられます。

これらの工夫は通級による指導においても、同様です。

通級による指導において、一人の教員が10人前後の児童生徒を担当し、巡回指導も行う場合は、週の時間割で指導の時間を固定化することは、スムーズな運営上やむを得ませんが、その児童生徒の教育課程（替えた教科の時間に自立活動を行っている）に基づいて計画される必要があります。



特別支援学級や通級指導教室の教育課程は、学校全体の教育課程と大きな関わりを持っていますので、担任・担当以外の教師の協力を得て、組織的に編成されなければなりません。日課表の設定も同様です。

教育課程の編成については、こちらも参考にしてください。

[大分県教育委員会「特別支援学級及び通級指導教室経営の手引\(改訂版\)p.7-13」](#)

